

## 8 十勝での春まき大麦栽培の取り組みに関する調査研究

大正大麦笑の会 代表 道見 拓也

### 1. 調査研究の目的

昨年度と同様、安定した十勝での大麦栽培を基本的な目的として、今年度は課題を持ち調査研究を行う。課題として、沖積土と火山性土との生育過程の違いについて、液肥を使用した追肥を行う事での倒伏の危険性とタンパク質の含有量調査、平成29年産大麦製品を使用した自家種更新での発芽率と病害を調査研究することで安定した大麦栽培を目指す。

### 2. 調査研究の内容

供試品種 りょうふう

栽培面積 20a

#### ○栽培管理

播種日 4月10日

収穫日 8月7日

#### ○肥培管理

肥料の名称 汎用1号

施肥量 45kg (10aあたり)

種子量 6.75kg (10aあたり)

株間 12.5cm (タバタ播種プランターを使用)

#### ○防除管理

・除草剤散布 4月10日

農薬の名称 ゴーゴーサン乳剤 (400ml 10aあたり)

5月17日

MCPソーダ塩 (300ml 10aあたり)

アクチノール乳剤 (150ml 10aあたり)

・成長抑制剤 6月20日

農薬の名称 エスレル (200ml 10aあたり)

・殺菌剤散布 6月25日 7月16日

農薬の名称 シルバキュア (50ml 10aあたり)

7月28日

チルト (66ml 10aあたり)

7月16日

モスピランSL (25ml 10aあたり)

### 3. 結果

収量 総収量596.2kg (5俵 10aあたり)  
水分 11.1%

### 4. 課題の考察と来年度への課題

○沖積土から火山性土との生育過程の違いについて

- ・平成29年度大麦栽培 土質・沖積土  
播種日 4月9日 出穂 6月23日  
収穫日 8月8日 収量 692.4kg
- ・平成30年度大麦栽培 土質・火山性土(黒色火山性土)  
播種日 4月10日 出穂 6月24日  
収穫日 8月7日 収量 596.2kg

#### 【結果】

- ・今年度は天候不順もあり、思うような収穫が見込めない年でしたが、土質の違いで大きな変化も無く他の生育過程についても違いが感じられなかった。十勝での幅広い作付けが可能と考える。

○液肥散布での追肥を行う事での倒伏への危険性と大麦製品のタンパク質含有量変化について

- ・追肥を行う事で倒伏の可能性が増えることが心配される。又、平成29年産大麦の製品成分を調べたところタンパク質成分が基準値に達していない事がわかり収量に対する窒素成分が足りないのでは無いかと考えられる。倒伏を抑えながら作物への窒素補給に適していると考えられる液肥散布での追肥を行った。
- ・液肥については「チコ」250倍(400ml 10aあたり)2回

#### 【結果】

- ・倒伏については一切無く収穫を終える。今年度は天候不順もあり、思うような生育では無い年だったので、液肥散布での追肥については今後も試験を続けて行きたい。

※今年度収穫した大麦製品のタンパク成分の値はまだ出ていない  
(調査段階)

○平成29年産大麦を使用した自家種更新での発芽率と病害について

- 十勝での安定した大麦栽培を目指すなか、大麦製品の出荷先が不安定な現段階ではしっかりとしたビール大麦の種子を買う事が出来ない。
- 今年度大麦播種の種子については平成29年産大麦製品を種子として使用
- 種子消毒はベンレートTコート種子量0・5パーセントで使用

【結果】

- 発芽率については基準の80%以上を播種前に確認する事ができた。病害に対しても問題なく播種から収穫までを終える。この結果から単年度の自家種更新は種子消毒を行う事を前提として問題は無いが、種子品質が低下する危険性もあるので種子については今後もしっかりと考えて行きたい。

○十勝での安定した大麦栽培について今後の課題

- 4月上旬の播種から8月上旬の収穫が出来る作物として十勝での作付けが期待できると感じている。しかし10aあたりの収量が5俵前後では収益性として期待が持てない。今後は多収量を目指す栽培技術が必要とされる。合わせて販売先、加工先と収益性を見据えた考えを持たなければならない。
- 来年度の種子についても問題点である。昨年度の製品を自家種更新として使用する事が単年度であれば問題無いことは分かったが多収量、販売先、加工先と考えて行くと自家種更新は長くは続かない。種子販売店、十勝農業改良普及センター、農協等へこの取り組みを知って頂き種子の問題点を共に考えて行きたい。

春耕作業（4月9日）



大麦圃場（5月4日）





出穂（6月24日）



液肥散布（6月25日）



収穫した大麦（8月7日）



唐箕作業（11月22日）

